

横尾忠則

インドへ

インドへ

一九七七年六月二五日第一刷・一九七七年七月二〇日第二刷——定価二二〇〇円

著 者 横尾忠則

発行者 阿部亥太郎

発行所 株式会社文藝春秋

東京都千代田区紀尾井町三（〒102）
電話〇三—二六五—二二一

印刷所 凸版印刷

製本所 矢嶋製本

万一落丁乱丁がありましたらお取替えします

©Tadanori Yokoo 1977 Printed in Japan

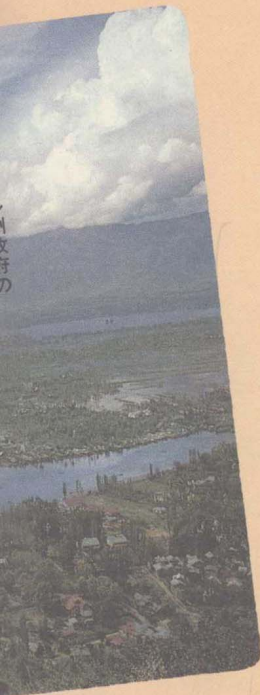
T.Tsunoda

Bhagava

Hi
A.C
Swan



RA



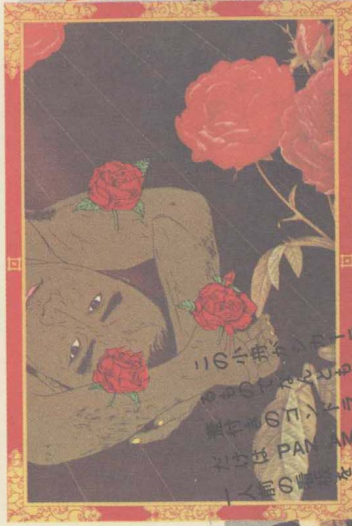
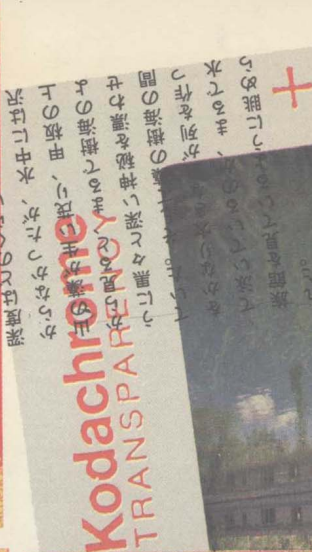
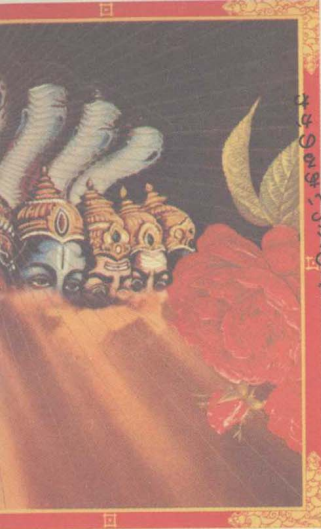
USTAD

ALI AKBAR KHAN

PRE-DAWN to
SUNRISE RAGA

こうして山の上にいると下界
の音が、風の音や草木が揺れ
合う音、虫や小鳥の自然の音
から、次第に人工的な音に変
化しながら、朝がまるで音楽
を聴いているように明けてい
く。アリ・アクバーカーンの
夜明けのラーガンが、どこか
らともなく聴こえてくるよう
なスリナカルの夜明けである



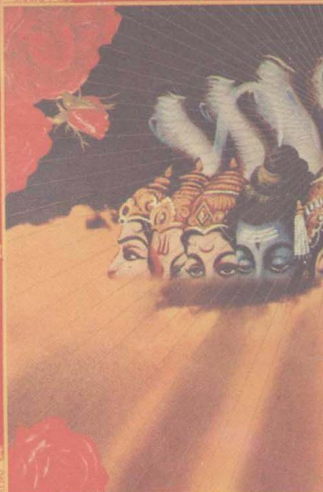


この小冊子に、うと呼ばれ
るものがある。お題を天
下で、その名だが、名前
は PAN AMERICAN と
く、その名を掲げしる。

PROCESSED BY
FAR EAST LABORATORIES, LTD.

T. Kurahashi

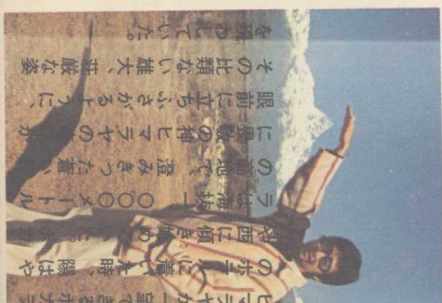
T. Kurahashi



いわれるが、全く思いつきで描いたばかりの三島由紀夫像のインドが、まさかぼくを本当にインドへ導くとは思ってもよらないことだった。このような因果を考えると、三島さんがいうあの涅槃像は、三島さんの死を賭けた強い思念がぼくに描かせたのかも知れない。

[illegible]

T. Kurahashi



A. Yokoki

を預かっていた

その比類ない雄大、莊嚴な姿

眼前に立ちふさがるように、

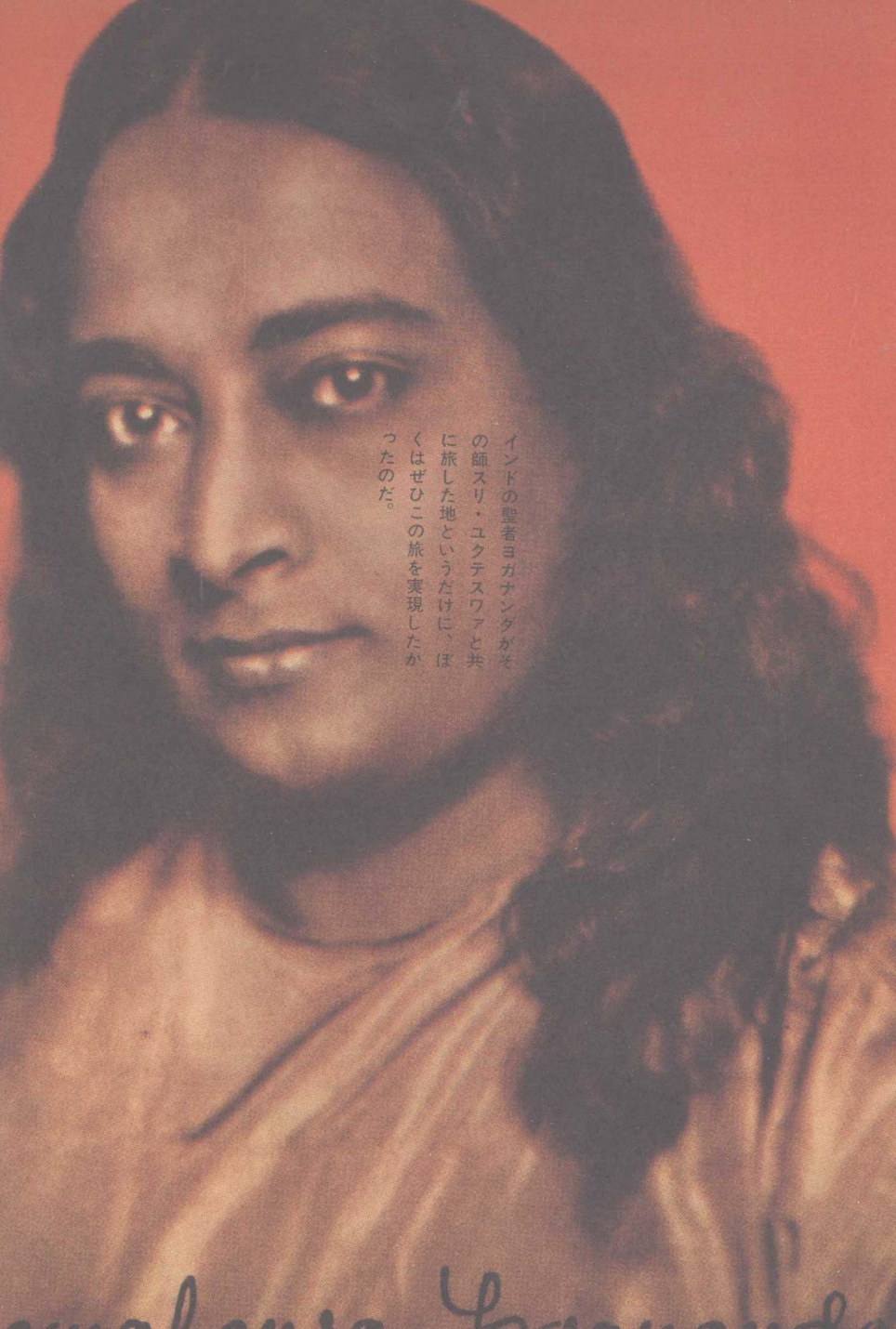
に腰鼓の押シマンチ

テは酒一〇〇〇メートル

や西に傾き、

のホニエに着いた時、陽はや

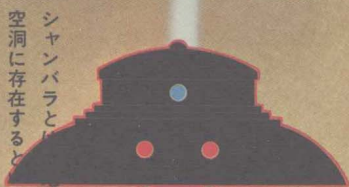
ビロニキ力一讀て悉るナリ



インドの聖者ヨガナンダがそ
の師スリ・ユクテスワフと共
に旅した地というだけに、ほ
くはぜひこの旅を実現したか
つたのだ。

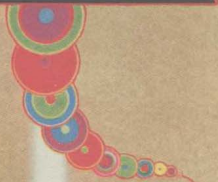
Amalania Yogananda

ほくのマインドにメンタル・スクリーンを描き、そこにアダムスキー型の円盤写真やオーソン（アダムスキーがコンタクトしたといわれる金星人）の肖像画や、オーソンがアリゾナの砂漠の砂地に残した靴の跡のスケッチやバロマー・ガーデンスへ飛来した金星の円盤が投下したペドラ・ビン



シャンバラというアガルタ王国の首都の名前である。

球内部の



マハリシ・マヘシ・ヨーギの説明を借りると、息を吸い込むたびに宇宙のアラナ（存在）の振動性、呼吸のもつ最も微妙な面をとらえている）が個別生命力に同化し、息を吐くごとに個別生命の流れが宇宙「存在」に溶融する。したがって、呼気と吸気の間に個別生命は宇宙「存在」と交流する（超越瞑想入門）といっている。



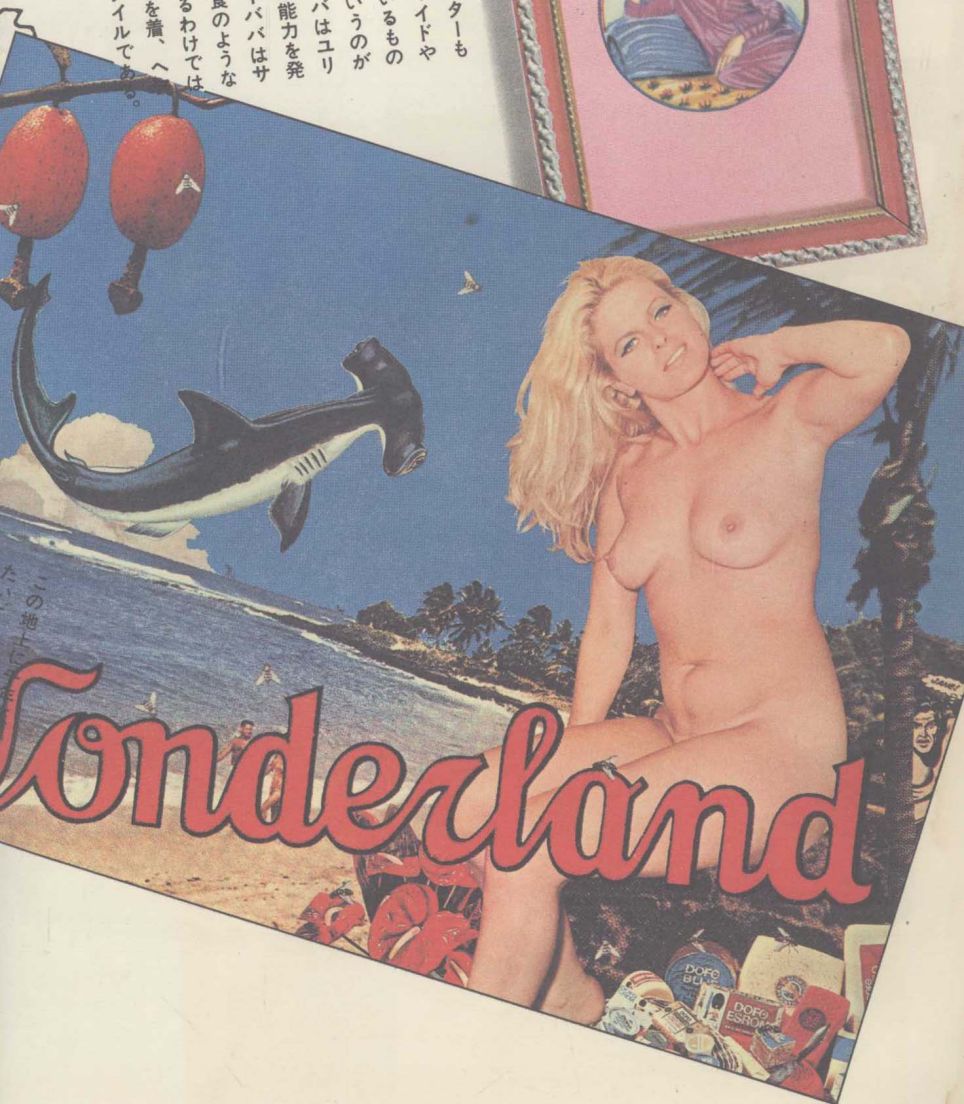
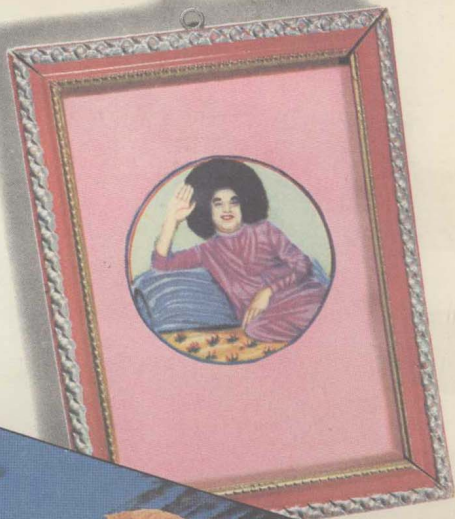
ナギン湖の夕暮の暮開きは、
神秘的な色彩の変化から始ま
った。対岸のヒンラヤの峻嶒
な山々の万年雪は西日を浴び
て、ピンクの宝石のように輝
いている。やがて日没が近づ
くとともに、青い陰が下の方
からせり上がるようにして次
第に万年雪で覆く陽光を消し
て行く。辺り一面が青一色に
なり始めると、ナギン湖の絶
妙な夕暮はクライマックスに
達する。対岸のハウスボート
の灯がともる頃、ナギン湖は
昼間の静寂と打って変って煙
霧と化す。

オタリウム、変な例えたが
チームの中のように無数の
かばら撒かれていた。へ星の
ような夜、とはまさにい
ような情景をいうのである
か。天窓に穴が開いて、そ
穴から光が漏れているとい
た方がいいだろうか。この
るでSF映画の画面のよう
宇宙に、ぼくはしばし驚嘆
て、天を仰いだままつゝ立
ていた。

T.Kurahashi

→13A

サドウのスーパー・スターも
いて、ちゃんとプロマイドや
本になって売られているもの
もある。サイババというのが
そうである。サイババはユリ
・ゲラーのように超能力を発
揮するらしい。サイババはサ
ドウといつても乞食のような
格好で放浪しているわけでは
ない。立派な洋服を着、ヘ
ーはアフロ・スタイルである。



最初のインド旅行はデリー→
アグラ→ジャイプール→ボン
ベイ→オーランガバード→エ
ローラ→アジャンタ→ゴア→
ベナレス→ネパールのカトマ
ンズ→ポカラ→カルカッタと
いうコースだった。



同海の楽園シリーズを初め
た。

文藝春秋



Raj Kapoor's

BOB

MUSIC | LAY

「人間は生まれながらに悟っている。そして五官（眼・耳・鼻・舌・身）も五蓋（貪り・怒り・無知・蒙昧・躁鬱・疑い）も最初からない。つまり人間的な見解であれこれ物事を分別するから、ここに持たなくてもいい苦悩が生まれるのだ。」



人間は生まれながらに悟っている。そして五官（眼・耳・鼻・舌・身）も五蓋（貪り・怒り・無知・蒙昧・躁鬱・疑い）も最初からない。つまり人間的な見解であれこれ物事を分別するから、ここに持たなくてもいい苦悩が生まれるのだ。



「人間は生まれながらに悟っている。そして五官（眼・耳・鼻・舌・身）も五蓋（貪り・怒り・無知・蒙昧・躁鬱・疑い）も最初からない。つまり人間的な見解であれこれ物事を分別するから、ここに持たなくてもいい苦悩が生まれるのだ。」

麻布大観音

永平寺別院 麻布長

「人間は生まれながらに悟っている。そして五官（眼・耳・鼻・舌・身）も五蓋（貪り・怒り・無知・蒙昧・躁鬱・疑い）も最初からない。つまり人間的な見解であれこれ物事を分別するから、ここに持たなくてもいい苦悩が生まれるのだ。」

「人間は生まれながらに悟っている。そして五官（眼・耳・鼻・舌・身）も五蓋（貪り・怒り・無知・蒙昧・躁鬱・疑い）も最初からない。つまり人間的な見解であれこれ物事を分別するから、ここに持たなくてもいい苦悩が生まれるのだ。」

目次



静止した時間 自然がぼくの体内に浸透する — 19

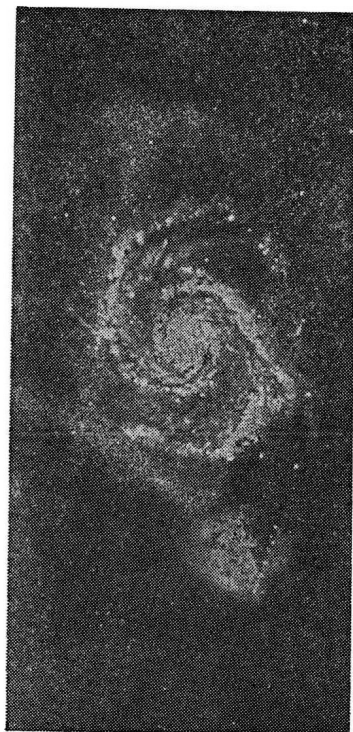
クリシュナ神のブロマイド まるで映画スターを愛するように — 29

子供の頃へ インドの旅は不思議な時間旅行だ — 40

人類の巣窟 無数の目がお前は誰だと問う — 49

恥と汚れ 乞食の群からの逃走——82

北斗八星 スリナガルの夜空を走った光体は何だったろう——88



夜明けのラーガ 河辺で見る輪廻転生——97

瞑想 インドではドラッグはいらない——98

インドはわからない オンボロバスと蠅の話——94